

## 船舶事故調査報告書

令和3年1月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年7月24日 15時35分ごろ
発生場所	沖縄県 <small>まんなかぐすく</small> 金武中城湾新港地区東ふ頭南東方沖 金武中城港中城新港東防波堤西灯台から真方位115°980m付近 (概位 北緯26°18.3′ 東経127°52.9′)
事故の概要	搭載艇おうみ02は、航行中、浅瀬に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年7月28日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	搭載艇 おうみ02、8トン（基準排水量） なし、防衛省
乗組員等に関する情報	艇長、操縦小型級（防衛省基準）
負傷者	なし
損傷	プロペラ翼及びプロペラガードに変形、船底外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約8m/s、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 低潮時
事故の経過	本船は、艇長ほか2人が乗り組み、同乗者1人を中城新港へ移送した後、錨泊中の補給艦おうみに帰艦する目的で東南東進中、艇長が、事前に海図で確認した水深で問題なく航行できると思い、同艦に向けて航行を続けていたところ、浅瀬に乗り揚げた。 艇長は、海図に記載された浅瀬付近の水深を誤って認識していた。 本船の喫水は、船首尾共に約0.6mであった。
分析	本船は、艇長が、事前に海図で確認した浅瀬付近の水深を本船が航行するのに十分な水深があると認識して航行を続けていたところ、実際には艇長が認識していた水深よりも浅かったことから、浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、艇長が、事前に海図で確認した浅瀬付近の水深を本船が航行するのに十分な水深があると認識して航行を続けていたところ、実際には艇長が認識していた水深よりも浅かったため、浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・海図の確認を適切に行うこと。